2021年度の取組み
～新型コロナからの関西国際空港の復活に向けて～
関西国際空港全体構想促進協議会

新型コロナウイルス感染症に対する関西国際空港の取組み

関西エアポート株式会社の感染対策（2021年以降の取組み）

○関西エアポート株式会社では、感染対策として、以下のとおり実施しております。
　感染対策に関する最新情報は、公式ホームページよりご確認ください。

2022年7月25日時点

時期	感染対策への取組経過
2021年 1月28日～	ワクチン輸送体制を構築
2021年 5月20日～	1日最大2500検体の検査を可能とする、自動PCR検査ロボットシステムを搭載したコンテナ（川崎重工株式会社）を第1ターミナル4階屋外に設置
2021年 5月21日～	新型コロナウイルス感染症ワクチン「COVID-19ワクチンモデルナ筋注」の国内及び接種会場への流通体制を形成
2021年 6月22日～	利用客の指触の可能性が高い、第1ターミナル内のキャニオンシースルーエレベーター操作盤及び手すり等への抗ウイルス性防汚コートを順次施工
2021年 9月22日～	近畿大学医学部関西国際空港クリニック及び川崎重工株式会社によりPCR検査センターがオープン、国際線出発旅客向けに、川崎重工株式会社開発・製造した自動PCR検査ロボットシステムを活用したPCR検査を実施
2021年12月13日～	医療法人友広会及び川崎重工株式会社によりPCR検査クリニックがオープン、国際線出発旅客向けに、PCR検査や抗原定量検査、血清IgM抗体検査を実施

関西エアポート株式会社公式ホームページ： https://www.kansai-airport.or.jp/notices/covid-19/measures

関空におけるPCR検査センターの整備

○出国時に必要な陰性証明書の発行を行うため、空港へのPCR検査センターの設置に協力しました。

■近畿大学医学部　関西国際空港クリニック
運営開始：2021年9月2日～
運営者　：川崎重工株式会社・近大関西国際空港クリニック
検査方法：リアルタイムRT-PCR法（唾液）

■医療法人友広会　関西国際空港PCRクリニック
運営開始：2021年12月13日～
運営者　：川崎重工株式会社、医療法人友広会
検査方法：リアルタイムRT-PCR法（鼻咽頭、唾液）・抗原定量検査（鼻咽頭）・血清IgM抗体検査（血液）

PCR検査センターの受付 ▶

関西エアポート株式会社公式ホームページ： https://www.kansai-airport.or.jp/service/other/11.html

新型コロナウイルス感染症に対する関西国際空港の取組み

関西空港検疫所の水際対策

入国時の検疫措置

〇入国時の検疫措置の違いを滞在していた国・地域により、色別で区分されています。　2022年7月25日時点

滞在していた国・地域の区分	有効なワクチン接種証明書	入国時の検疫措置		
		出国前検査	到着時検査	待機
青区分　98か国・地域 （米国、英国、他）	不要	全員必須	不要	不要
黄区分　99か国・地域 （ベトナム、インド、他）	あり			
	なし		要	自宅３日間※１
赤区分　４か国・地域 （パキスタン、他）	あり		要	
	なし		要	施設３日間※２

※１ 待機３日目に検査を受検し陰性を確認した場合。検査を受検しない場合は７日間。
※２ 施設待機３日目に検査を受検し陰性であれば、待機解除。

ファストトラックのご利用方法

※ファストトラックは現在、成田国際空港、羽田空港、中部国際空港、関西国際空港、福岡空港より入国する方が利用可能となっています。

〇関西空港検疫所では、2022年2月7日より、日本へ入国、帰国時の検疫の手続きを簡素化・迅速化を図るため、入国者健康居場所確認アプリ「MySOS」によるファストトラックの運用を開始しました。

入国時にMySOSの画面を見せるだけ！

申請内容に不備がある場合は、画面が赤色になります。再登録が必要。

検査証明書を事前に登録せず、空港で提示する場合、もしくは、事前審査が進行中の場合は画面が黄色となります。

【本アプリで手続き可能なもの】
ア．質問票　イ．誓約書　ウ．ワクチン接種証明書　エ．出国前72時間以内の検査証明書
※搭乗便到着予定日時の６時間前までにアプリ上での事前申請を完了が必要。

厚生労働省ホームページ： https://www.hco.mhlw.go.jp/fasttrack/

関西国際空港の復活に向けた促進協の取組み①

促進協の要望活動

○新型コロナウイルス感染症の影響により、航空需要が激減するなど、開港以来最大の危機にある関西国際空港の回復と強化に向けた要望活動を実施しました。

■要望先　国土交通省、厚生労働省、財務省、法務省
■要望日　2021年9月1日（水）
※2021年度は、会長等役員による大臣などへの要望活動は実施せず、促進協事務局による要望書の配付を行いました。

要望項目	要望内容	要望を踏まえた関西国際空港に対する主な国の対応（予算措置状況）	関係省庁
1．空港を支える重要機能の維持	これまで空港を支えてきた事業者の雇用を守り、機能維持をを図るための必要な財政支援策を要望	**雇用調整助成金等による雇用維持の取組への支援**	厚生労働省
		雇用の維持・在籍型出向の取組への支援	
2．水際対策の充実・強化	世界での変異株の確認状況等を踏まえた水際対策の一層充実・強化や、検疫体制の一層強化を要望	**水際対策の強化に向けた検疫所の検疫・検査体制の整備・拡充**	
		機動的な水際対策の推進、入国者の健康確認の体制確保	
3．ポストコロナに向けた取組み	ワクチンパスポートの相互承認の推進や早期デジタル化、疲弊した航空産業や観光産業の回復を支えるための必要な経済対策、出入国手続きの迅速化のための、CIQ間の緊密な連携を要望	**検疫におけるワクチン接種証明書の電子化への対応**	
		新たなGoToトラベル事業	国土交通省 観光庁
		戦略的な訪日プロモーションの実施	
		訪日観光客等手続支援システム	デジタル庁
4．空港機能強化の着実な推進	空港施設の機能強化や必要となる容量拡張の検討に対し、国の適切な関与と支援、関空と都心部を結ぶなにわ筋線の整備への支援、関空と関西各地を結ぶ高速道路網の整備の着実な推進を要望	**空港の脱炭素化等の推進**	国土交通省
		なにわ筋線の整備	

関西国際空港の復活に向けた促進協の取組み②

関空の立地効果波及推進事業

○関空立地の経済的効果が十分享受できていない地域に対し、その効果を波及させていくために、関係自治体等と共同・連携し、関空の旅客・貨物需要がもたらす経済的効果を、地域に取り込む事業を実施しました。

事例① 淡路島

（左）関西観光フェア
（中右）SNSによる情報発信 ▶

■**実施主体**：（一社）淡路島観光協会
■**実施期間**：2021年7月～2022年1月
■**主な事業内容**

香港・台湾を中心とする東アジア向けに観光情報を発信

・在日インフルエンサー（香港・台湾）を起用したファムトリップを実施し、YouTubeやFacebook、Instagramを通じて淡路島の魅力や観光情報を発信
・台湾新光三越『日本商品展』における関西観光フェアにおいてパンフレット、動画等により淡路島の観光をPR

事例② 泉州～和歌山

（左）水間鉄道運転体験の様子
（右）Web「ELLE TAIWAN」の記事 ▶

■**実施主体**：（一社）KIX泉州ツーリズムビューロー
■**実施期間**：2021年12月～2022年3月
■**主な事業内容**

台湾のTV番組の制作・放映により泉州～和歌山の４つのローカル路線の観光情報を発信

・鉄道マニアの多い台湾に対して、旅番組「旅日達人秘笈」を制作し、水間鉄道及び和歌山電鐵における車両運転体験の様子、南海電鉄加太線及び多奈川線の周辺観光スポットの紹介などを放映
・台湾の20～30代に人気の雑誌Webサイト「ELLE TAIWAN」へ旅情報記事を掲載

地域振興への取組みや地域のイベントなどの取材記事を、当協議会のホームページへあげていきますので、ぜひ、ホームページをチェックしてくださいね！

関西国際空港の復活に向けた促進協の取組み②

関空の立地効果波及推進事業

事例③岬町

（左）サイクリングツアー ▶
（右）植樹祭

(１)『大阪府立大学留学生との地域交流・地域の魅力PR』

■実施主体：岬町・大阪府立大学
■実施期間：2021年7月～2022年1月
■主な事業内容

留学生と地域の交流事業を通じて岬町の魅力をPR・再発見

・多奈川小学校において、児童と留学生が自国文化等を紹介するオンライン交流や一緒に苗木を植える「植樹祭」を実施
・留学生が観光スポットを巡り、岬町の文化や歴史に触れる「岬町魅力発見サイクリングツアー」を実施

▲釣り体験　▲捌き方教室　▲PR動画撮影の様子

(２)『釣りの町みさきを活かした新たな観光商品造成実証事業』

■実施主体：岬町
■実施期間：2022年3月13日・14日（２日間）
■主な事業内容

釣り未経験の20代～40代女性向けの新たな観光商品造成と「関空からすぐに行ける釣りスポット」のPR動画を配信

・モニター女性12名が参加し、「釣り＋捌き方教室＋魚料理体験」がセットになった観光商品の実証事業を実施
・海上釣り堀オーパや料理店「魚てつ」、道の駅みさき及び関空等にてPR動画を撮影、YouTubeにて配信

事例④加太

（左）葛城修験道入峯体験 ▶
（右）ツアーWebサイト制作

■実施主体：加太観光協会
■実施期間：2021年7月～2022年3月
■主な事業内容

ウィズコロナ、アフターコロナに向けた観光商品・情報発信ツールの造成

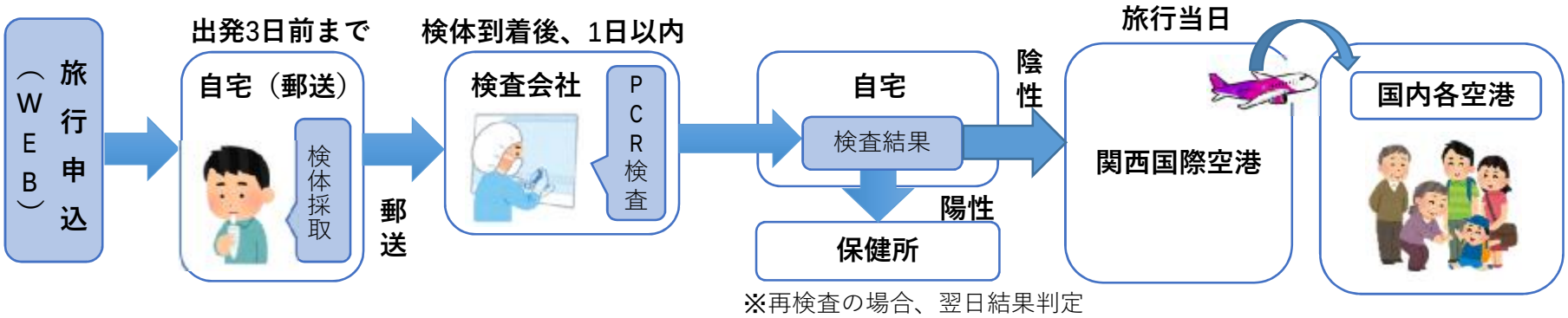
・山伏が同行する葛城修験道入峯体験や伝統漁方（一本釣り）見学クルーズのツアー造成、特設サイトを制作
・伝統漁法クルーズのVR動画（日・英・中・韓の４か国対応）の制作
・専任通訳案内士（10名/英・中・仏・韓の４か国）を育成

関西国際空港の復活に向けた促進協の取組み③

旅客需要の回復「郵送PCR検査後国内線利用実証事業」　peach × 促進協

○新型コロナウイルス感染症の影響により地方への帰省が自粛傾向にある中で、介護等の理由で定期的な帰省を必要とする方が安心して帰省できる環境をつくるため、Peach Aviation株式会社が実施した、国内線利用と低価格な郵送PCR検査がセットになった旅行商品を提供する事業に対して促進協と就航先自治体等が連携し、支援しました。

【旅行出発までの流れ】



※再検査の場合、翌日結果判定

【実施期間】　（第1期）2021年 2月20日～2021年 5月 9日　（第2期）2021年 7月18日～2021年 9月30日

◎利用者から本事業へのご意見・ご感想が寄せられました。

「やっと帰省できた。ありがとう！」
「本取組みは画期的だった。今後も改善しながら継続してほしい。」
「（関空からの）往路のみならず、復路も検査がついていたらもっと安心につながると思う。」

◎ピーチ社の評価

「他の航空会社においても、検査付き商品が販売されるとともに、感染拡大に伴い、国の無料検査の実施につながるなど、先駆的で社会的意義が大きい取組みであったと評価している。」

関西国際空港の復活に向けた促進協の取組み④

関空アクセス支援事業　「ベイ・シャトル日帰り親子体験乗船会及び関空見学ツアー」の実施

○ベイ・シャトル15周年記念イベントとして感染防止対策を実施したうえ、兵庫県内に住む親子を対象に、ベイ・シャトルに無料招待及び関空見学ツアーを実施することで、関空への理解、興味を深めるPR機会につなげました。

■**実施主体**：株式会社OMこうべ
■**実施期間**：2021年11月20日・21日・23日（３日間）
■**参加人数**：229名（大人：124名　小人・幼児：105名）
※うち11名はキャンセル
■**実施内容**
①親子乗船体験
兵庫県内に住む親子を、ベイ・シャトルに無料招待し、兵庫県から関空へのアクセス利便性を体験。
②関空見学ツアー
展望ホールや、国際貨物地区、機内食工場、管制塔などを見学し、関空への理解・興味を深め、コロナ後の利用意欲を向上。
見学ツアーの移動には、関西空港交通株式会社のバスを利用。

▲（左）参加記念品「ベイ・シャトルオリジナルペーパークラフト」
（右）OMこうべ設置のデジタルサイネージ

▲（左右）親子乗船体験

乗船者アンケートでは、今後の利用について、「是非利用したい」「選択肢の一つとしてとして考慮する」との回答が9割を超え、乗船体験を通じて、航路の利便性を実感いただきました。

▲関空見学ツアー

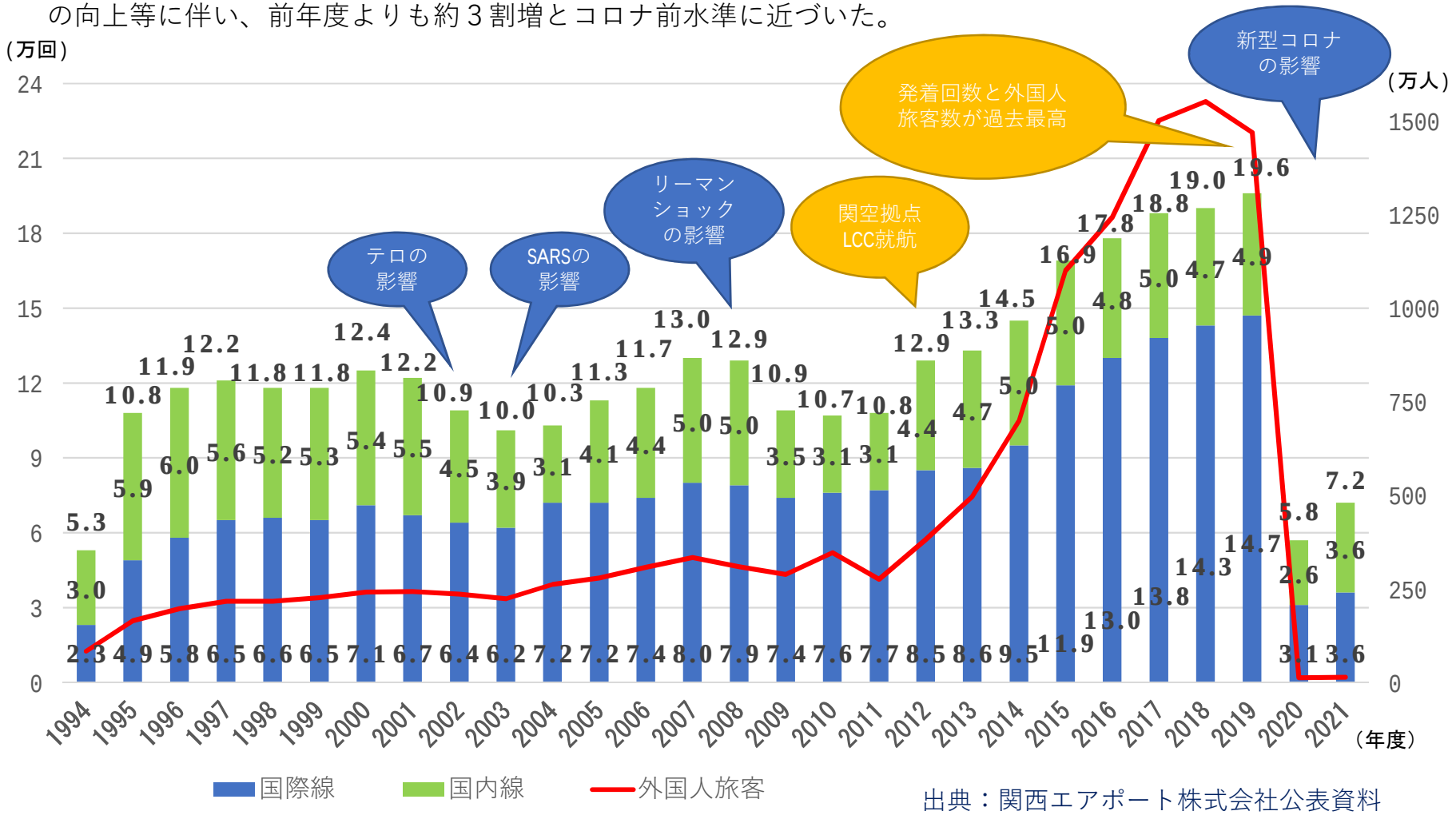
▲関西空港交通株式会社のバス

データでみる関西国際空港

■航空機発着回数(棒グラフ)・国際線外国人旅客数(折れ線グラフ)

〇2021年度は前年度比で国際線発着回数、外国人旅客数ともには約１割増と回復したものの、新型コロナウイルス感染症の影響長期化により、2019年度比で国際線発着回数は約８割減、外国人旅客数は約９割減と大幅に減少し、依然として、コロナ前水準への回復には至らなかった。

〇一方で、国内線発着回数は、度重なる緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が実施されたものの、ワクチン接種率の向上等に伴い、前年度よりも約３割増とコロナ前水準に近づいた。



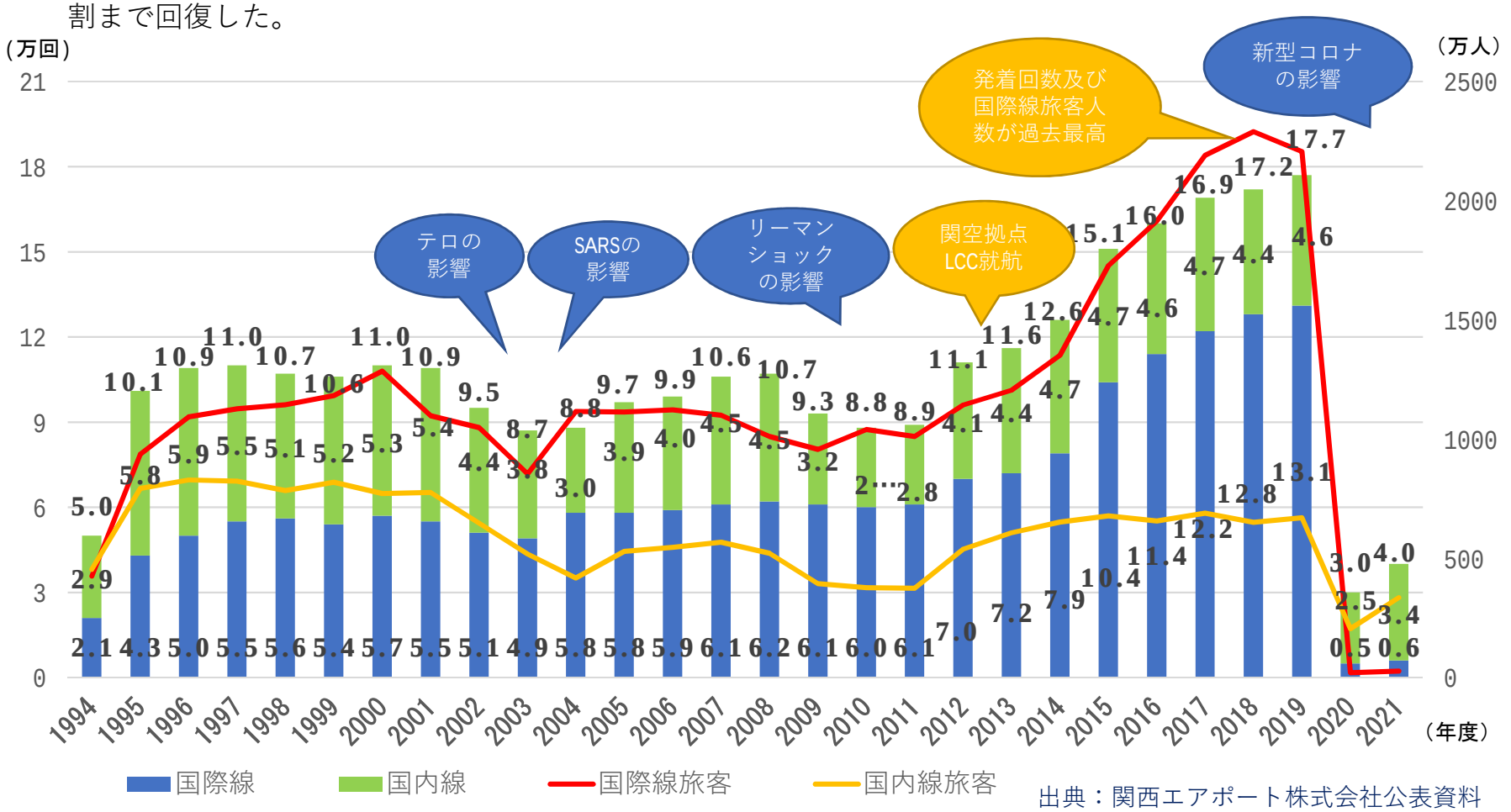
出典：関西エアポート株式会社公表資料

データでみる関西国際空港

■旅客便発着回数(棒グラフ)・国際線及び国内線旅客数(折れ線グラフ)

〇2021年度は前年度比で、旅客便総発着回数及び国際線旅客人数は約３割増、国際線旅客便の発着回数は約３割増と回復したものの、新型コロナウイルス感染症の影響長期化により、2019年度比で、旅客便総発着回数は約７割減、国際線旅客便の発着回数及び国際線旅客人数は約９割減と大幅に減少し、依然として、コロナ前水準への回復には至らなかった。

〇一方で、国内線においては、度重なる緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が実施されたものの、前年度よりもワクチン接種率の向上等に伴い、旅客便の発着回数は前年度比で約４割増、旅客人数においてはコロナ前の約６割まで回復した。

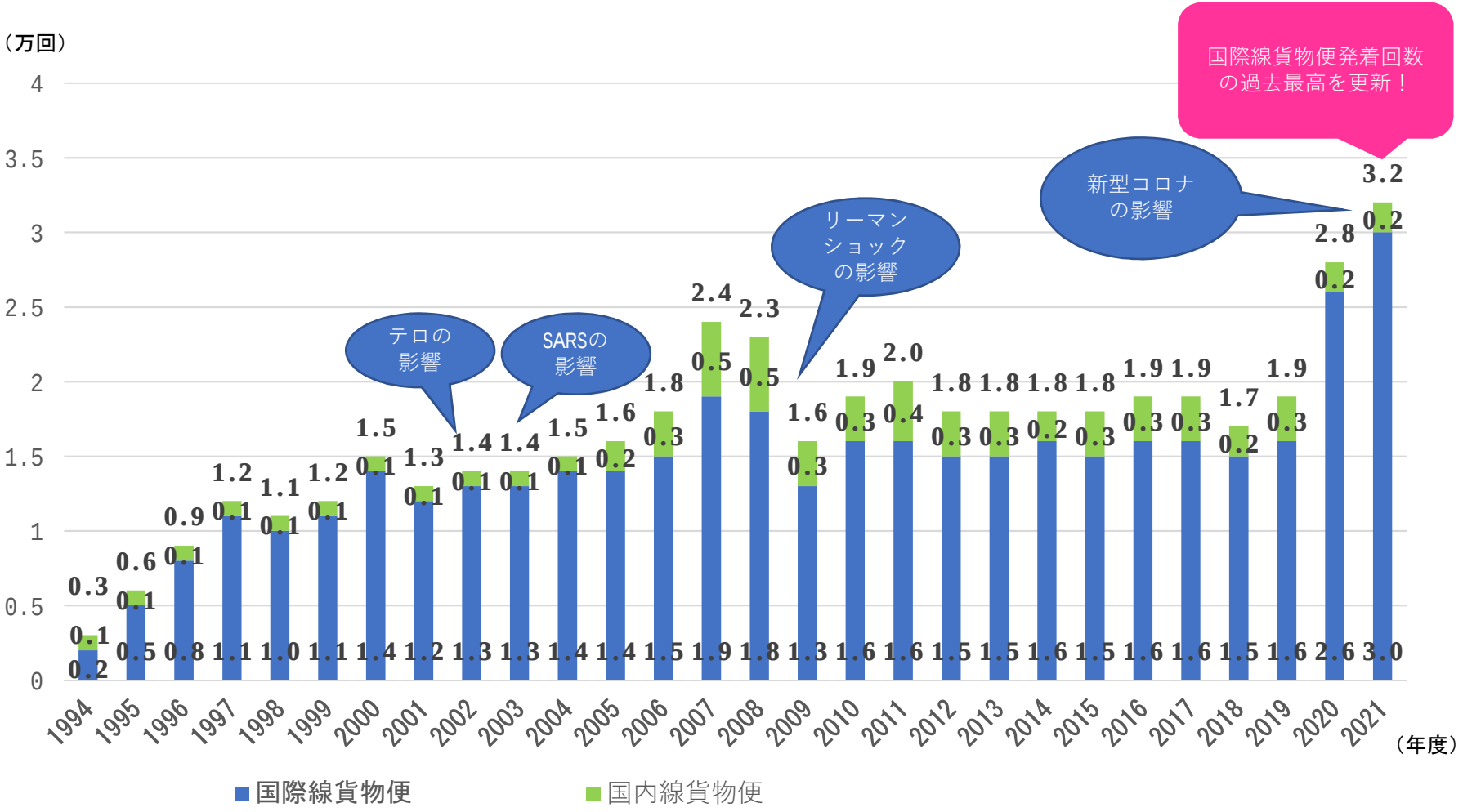


出典：関西エアポート株式会社公表資料

データでみる関西国際空港

■貨物便等発着回数

〇2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響長期化に伴い、前年度に引き続き、旅客便減少に伴って、貨物専用便の需要が高まったこと等により、国際線貨物便発着回数は28,248回と過去最高を更新した。



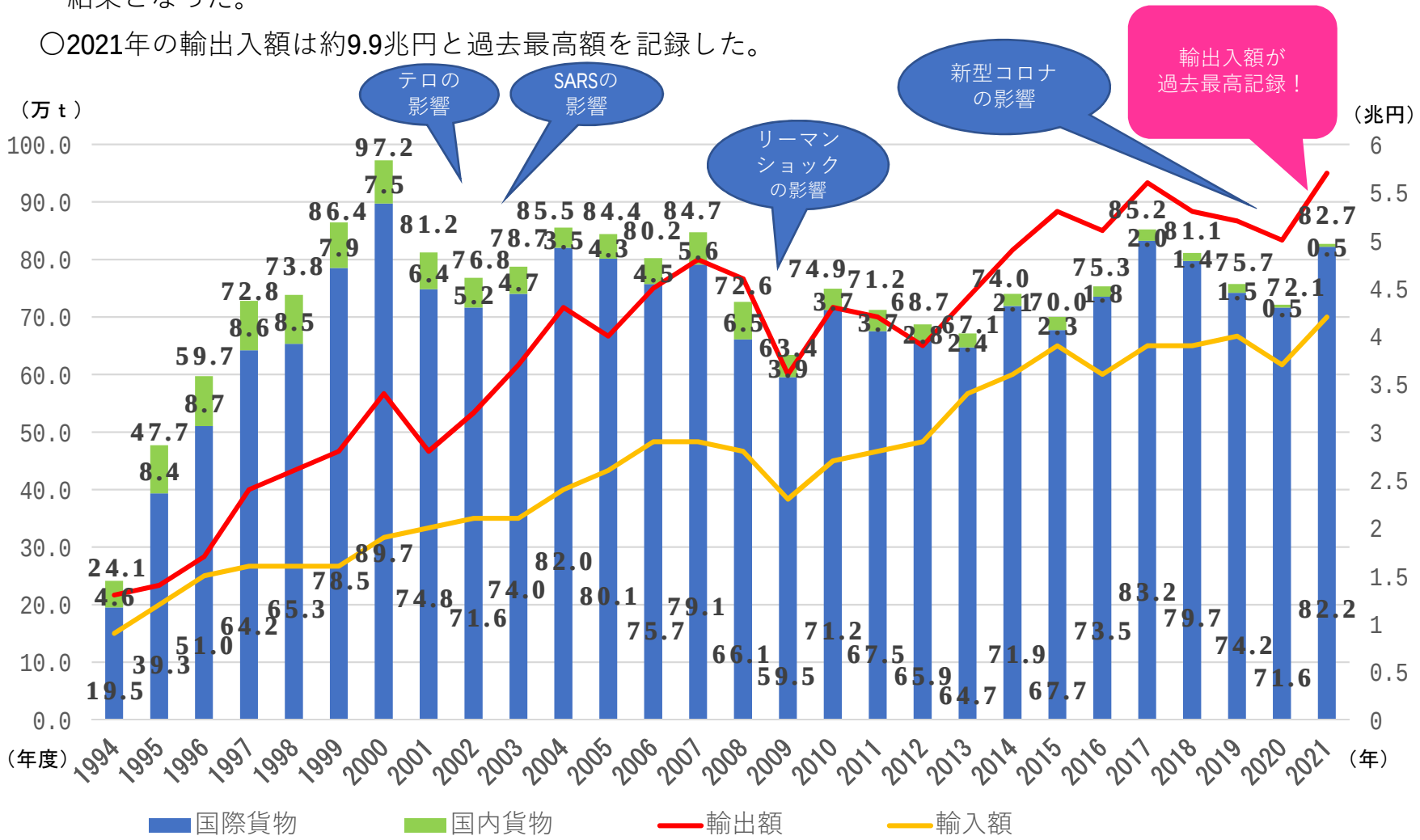
出典：関西エアポート株式会社公表資料

データで見る関西国際空港

■国際貨物・国内貨物取扱量（棒グラフ・年度）、輸出額・輸入額（折れ線グラフ・暦年）

〇2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響長期化により、国内貨物の取扱量は前年度比でほぼ横ばい、2019年度比で約５割減となった一方、国際貨物の取扱量は前年度の約２割増となり、コロナ前水準を超える結果となった。

〇2021年の輸出入額は約9.9兆円と過去最高額を記録した。



※2021年輸出入額は速報値

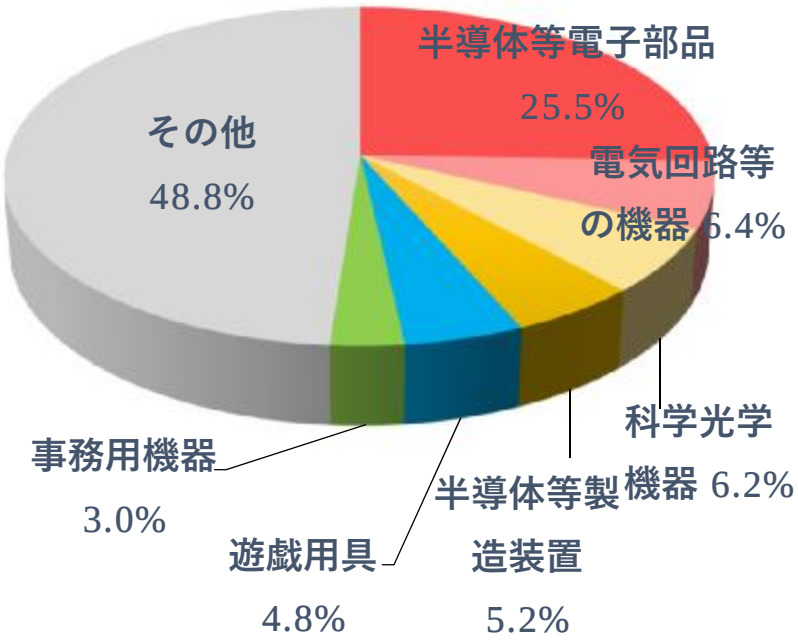
出典：関西エアポート株式会社公表資料、関西空港税関支署公表資料

データでみる関西国際空港

〇2021年の輸出入額品目別シェア１位は昨年と同様、輸出品目では「半導体等電子部品（前年比＋2.7ポイント）」、輸入品目は「医薬品（前年比＋17.5ポイント）」であった。

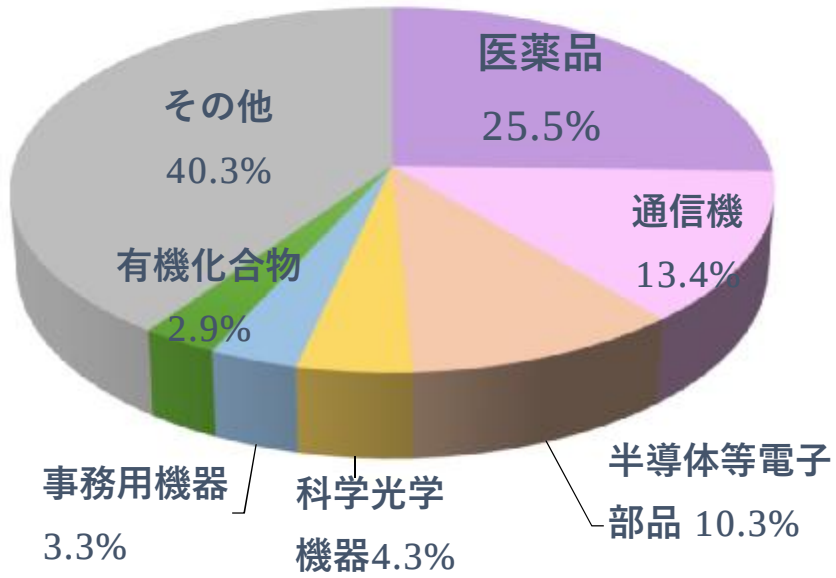
■輸出額品目別シェア（2021年）

総額：5兆7,363億円



■輸入額品目別シェア（2021年）

総額：4兆1,747億円



出典：関西空港税関支署公表資料

関西国際空港の施設

○関西国際空港は、騒音問題を避けるために、海上を埋め立てて造られた世界初の海上空港です。
2007年8月2日には、第２滑走路が供用（限定共用）開始され、「複数滑走路＋完全24時間運用」という日本で唯一、世界標準に適った基幹国際空港となりました。

面積　　：約545ha
供用開始：2007年8月2日
主な施設：
第2滑走路、 駐機場(27スポット)、第2ターミナルビル、貨物取扱施設、 駐車場等

面積　　：約510ha
開港日：1994年9月4日
主な施設：
第1滑走路 , 駐機場(67スポット)、第1ターミナルビル、貨物取扱施設、 駐車場等

※空港内施設の詳細については、関西エアポート株式会社の公式ホームページでチェックしてください。

https://www.kansai-airport.or.jp/map/guidance.html

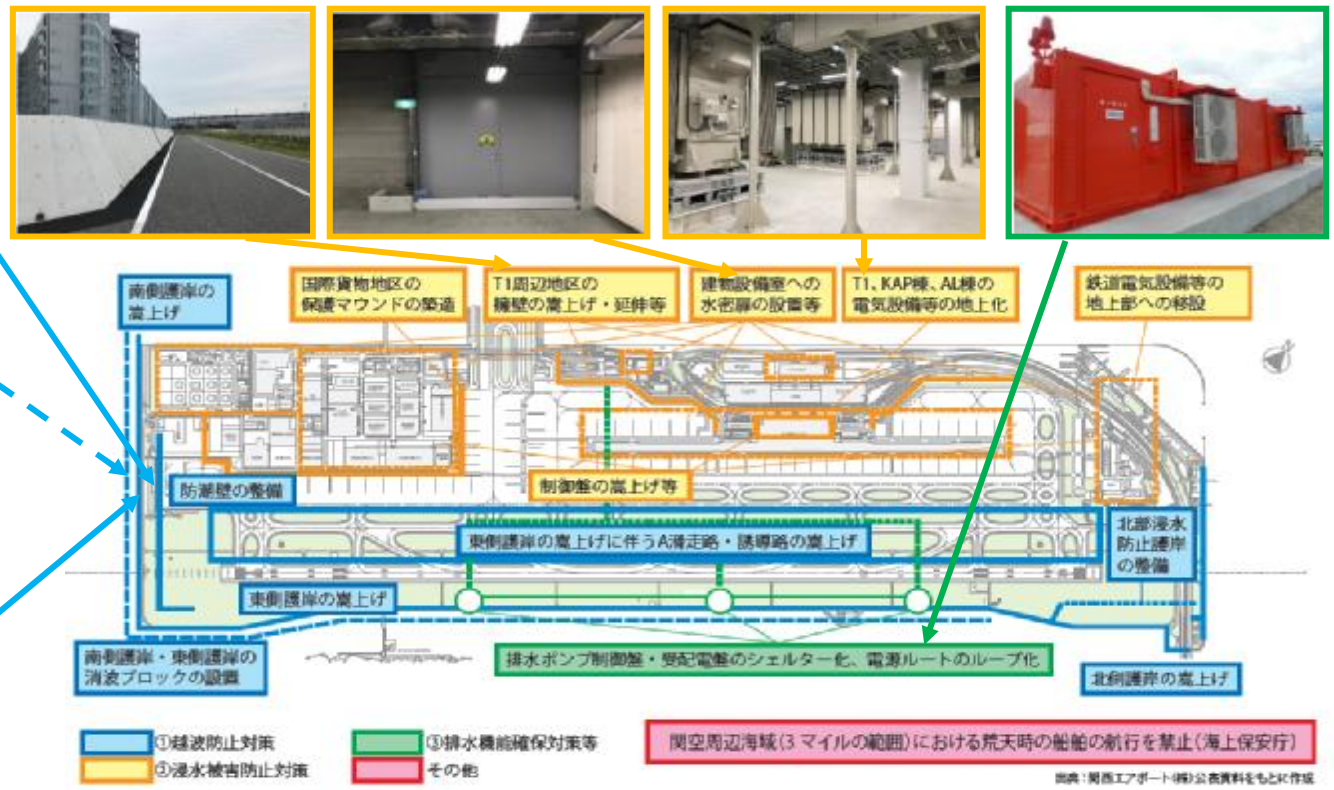
災害に強い関西国際空港をめざして

〇2018年9月に発生した台風21号の被害を教訓とし、関係者が一丸となって次のような取組みを実施しております。
このうち、ハード面の災害対策工事が2021年10月28日に完了されました。この工事により、2018年9月の台風21号クラスの巨大台風に対しても浸水量を大幅に低減させ、空港機能を維持することが可能となりました。

■ソフト面
オールハザードに対応した、新たな事業継続計画(BCP)の策定、総合対策本部（KIX JCMG）の設置(空港内外の32機関が参加)

■ハード面
防災機能強化対策事業計画（①越波防止対策、②浸水被害防止対策、③排水機能確保対策等）にかかる災害対策工事

▲（青上）消波ブロック
（青中）護岸の嵩上げ
（青下）南側防潮壁の嵩上げ



▲（黄左）防潮壁（擁壁）の嵩上げ・延伸
（黄中）水密扉の設置
（黄下）電気施設の地上化

関西国際空港ターミナル１リノベーション事業について

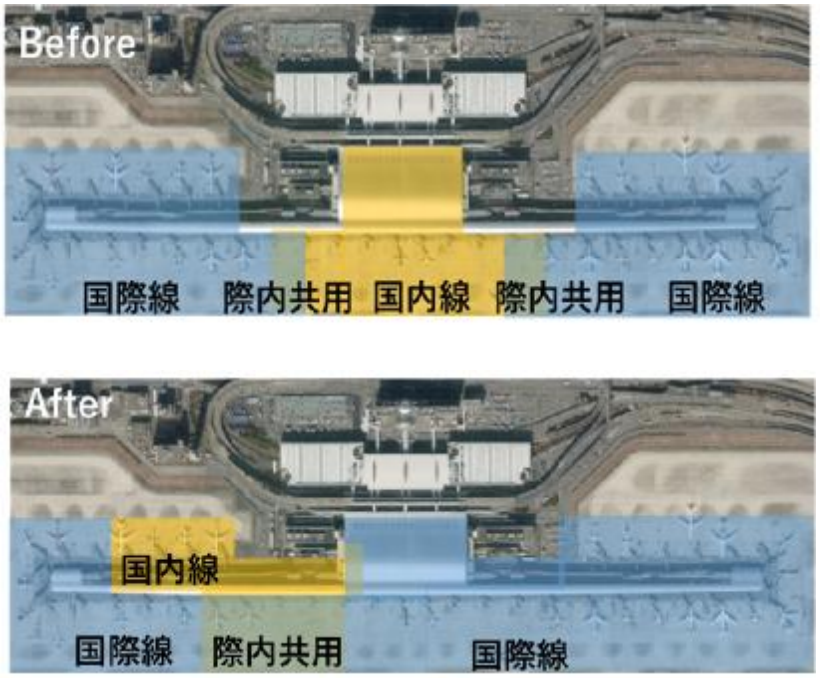
空港機能強化の推進「関西国際空港ターミナル１リノベーション事業」

○関西エアポート株式会社は、2025年大阪・関西万博に向け第１ターミナルにおいて、国際線エリアの拡大や手続き施設の中央集約化により、混雑を緩和させるなど、これまでに比べてスムーズな旅行を実現させるほか、耐震補強や商業エリアの充実で、空港利用者の安心・安全と満足度を向上させます。

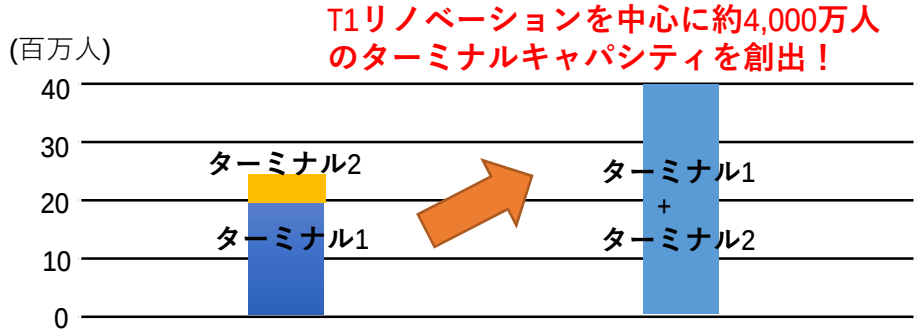
（2021年5月28日より本工事が本格始動）

○2022年秋にオープン予定の新たな国内線エリアでは、国内線保安検査場をターミナル南側１か所に集約し、新たな保安検査機器スマートレーンの導入で、混雑時の待ち時間が短縮されるなどファストトラベルが実現されるほか、商業エリアが大幅に拡大し、関西色豊かな新規出店店舗（飲食店４店舗、物販店２店舗）が決定されています。

【国際線エリアの一体化・拡大】



【国際線旅客受入機能の強化】



当　初　計　画	約1,200万人
2018年度国際線旅客	約2,100万人
リノベーション後	約3,000万人

開港当初の2.5倍!!

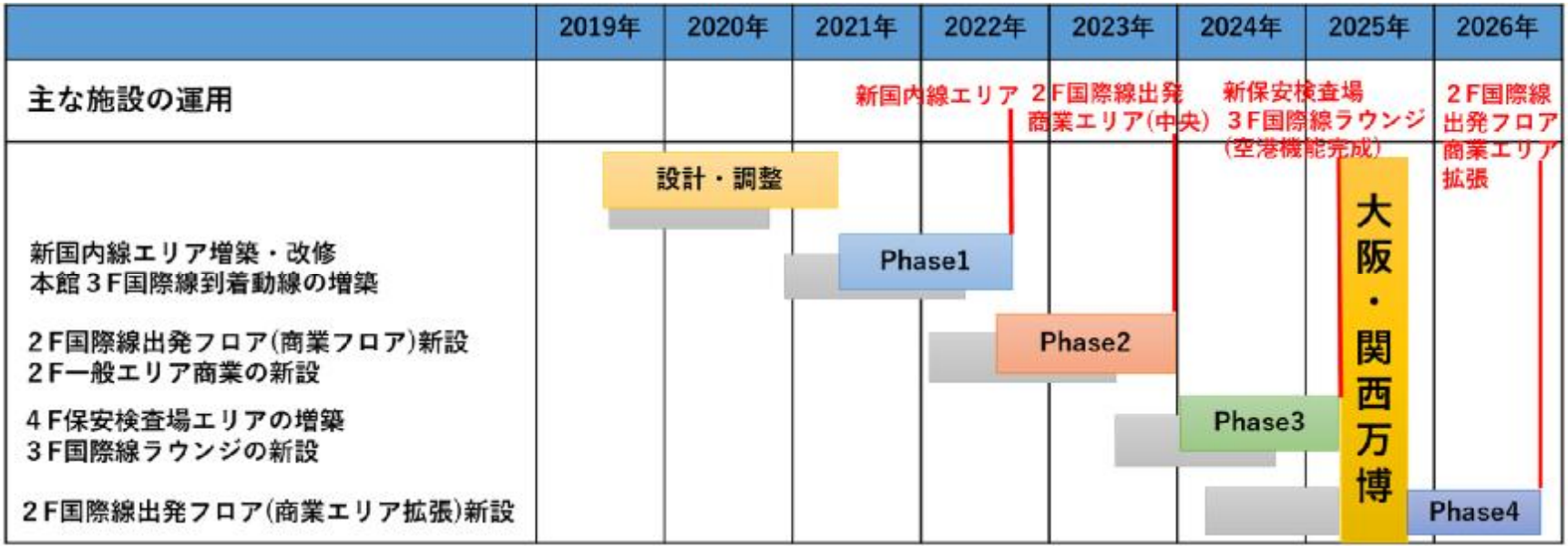
国際線出発エリアの面積
10,000㎡
16,000㎡

1.6倍に拡大!!

出典：関西エアポート株式会社公表資料

【T1リノベーションスケジュール】

▼グレー部分は当初のスケジュール予定。新型コロナウイルス感染症の影響により工期変更



▼2021年5月28日 T1リノベーション安全祈願祭・起工式の様子

▼2022年秋オープン予定の国内線商業エリアのイメージ

出典：関西エアポート株式会社公表資料

関西色豊かな新規出店店舗について：
http://www.kansai-airports.co.jp/news/2022/3023/J_220421_PressRelease_Phase1.pdf

関西国際空港全体構想促進協議会

当協議会は、関西の自治体や経済界等オール関西で構成された団体で、国等に対する要望活動のほか、関西国際空港の利用促進・利便性向上に関する事業に取り組んでいます。

■設　　立　　1998年7月28日

■役　　員

会　長	公益社団法人関西経済連合会会長	松本	正義
副会長	大阪府知事	吉村	洋文
	兵庫県知事	齋藤	元彦
	和歌山県知事	仁坂	吉伸
	大阪市長	松井	一郎
	堺市長	永藤	英機
	神戸市長	久元	喜造
	大阪商工会議所会頭	鳥井	信吾
特別参与	関西エアポート株式会社代表取締役社長CEO	山谷	佳之
参　　与	新関西国際空港株式会社代表取締役社長	千代	幹也
	関西国際空港土地保有株式会社代表取締役社長		

■位置図

■構成団体　87団体　／　参加団体　約160団体（促進協の趣旨に賛同し、協力をする団体）

事務局　大阪府 政策企画部 成長戦略局 空港政策グループ
〒540-8570
大阪市中央区大手前2丁目1番22号
TEL 06-6945-9900　FAX 06-6944-6842
E-mail:kuko@gbox.pref.osaka.lg.jp

促進協ホームページ
https://www.fly-kix.jp

促進協

ホームページをリニューアルオープンしました！
ぜひ、検索してみてください！

メールマガジン「KIXは、いま」登録者募集中！